



新年のご挨拶

社会福祉法人日本身体障害者団体連合会

あべ かずひこ
会長 阿部 一彦

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルスの感染拡大により、私たちの日常生活の意識を変えざるを得ない一年となりました。また、東京オリンピック・パラリンピックをはじめ、様々なイベントが延期や中止、規模縮小を余儀なくされ、日身連でも日本身体障害者福祉大会の中止という大きな決断をとることとなりました。日身連では、テレワークやオンライン会議を取り入れ、団体運営に努めながら、初めてオンラインによる理事会の開催を行う等、コロナ禍の厳しい環境を乗り越えるための工夫にトライした一年でもありました。

こうした新しい経験を積みながら、全国的な組織力を持つ強みを生かし、一貫して取り組んできている地域とのつながりを基本に、活動に努めてまいることの重要性を感じています。

加えて、一変した社会生活下において、多様な障害特性に配慮した対応の在り方に関しても、さらに国民的な理解の輪を拡げていくことが求められます。昨年の7月豪雨では被災地の皆さまは大変なご苦勞をされましたが、避難所等で生じた新型コロナの感染予防の対応の課題についても、一つ一つを解決するため、国や自治体、そして地域住民への働きかけも重要な日身連の役割の一つと考えます。

私たち自身の活動の後押しともいえる「私たちのことを私たち抜きに決めないで (Nothing about us, without us)」が地域社会に根つき、共生社会の実現にむけ、障害者団体が主体的に関わり、企業、行政が一体となって、互いに支え合う社会の文化が定着するように、さらに取組んでまいります。

日身連は、60余年の活動を通し、全国の加盟団体並びに賛助会員の皆さまをはじめ、障害関係団体、学識経験者や企業の皆さまとの連携を深め、ネットワークを活かし、障害を取り巻く多様かつ変化する社会情勢に対して真摯に取組んでまいる所存です。

引き続き、日身連の活動へのご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。結びに、すべての皆さまにとってよき一年となりますよう祈念し、年頭のご挨拶といたします。

障害者政策委員会が開催 障害者差別解消法改正に盛り込む事項が明示

12月14日、オンライン会議にて第53 一回内閣府障害者政策委員会が開催さ

日身連

発行所
社会福祉法人
日本身体障害者団体連合会
(中央障害者社会参加推進センター)
発行人 阿部 一彦
東京都豊島区目白3丁目4の3
ディアダंकビル4階
TEL 03-3565-3399(代)
FAX 03-3565-3349
<http://www.nissinren.or.jp>
Japanese Federation of
Organizations of the
Disabled Persons (JFOD)
年間購読料 正会員1部 300円
非会員1部 1000円

れ、阿部一彦会長が出席しました。冒頭、新たに就任した坂本哲志内閣府特命担当大臣から、忌憚のない議論をとる挨拶がありました。

まず、内閣府事務局より令和4年度までを期間とする障害者基本計画(第4次)の令和元年度の実施状況について説明が行われました。続いて、個別説明として文部科学省、厚生労働省、国土交通省から実施状況の中間報告があり、3省を中心に委員間の質疑応答が行われました。

次に、障害者差別解消法の見直しの検討について、6月に本委員会が取り

まとめた意見書を踏まえた政府の検討状況が事務局より報告されました。今回の改正案では、事業者による合理的配慮の提供の義務化、相談体制等に係る基本方針の追加事項、相談体制整備に向けた人材育成と確保等の明確化、事例等の収集・整理等の明確化、国及び地方公共団体の連携強化の責務追加の5項目を盛り込むことが提案、施行日は検討中ですが、相応の準備期間を設ける予定です。なお、本改正案については次期通常国会への提出が検討されています。